

令和5年 **7**月の**思いやり**通信

目次

- (1)  発電能力、化石燃料に匹敵 再生エネ電源、世界で5割規模へ
- (2)  住宅購入検討者 7割が「省エネ」意識 光熱費上昇で関心
- (3)  CO₂ゼロ住宅、改修が近道 木造建て替えより10年早く



(1) 発電能力、化石燃料に匹敵

再生エネ電源、世界で5割規模へ 送電・安定供給に課題

*国際エネルギー機関（IEA）は、2024年の再生エネ発電能力が約45億キロワットになる見通しを公表。

*再生エネの発電能力は、2024年には全電源の5割規模に。

*導入が遅れる風力の拡大といった電源構成の多様化や、送電網整備などが課題。

*2021年の化石燃料（約44億キロワット）と同規模に。

*原発4500基分。

*中国と欧州連合（EU）がけん引役。

*米国やインドも存在感。

*日本の出遅れは鮮明。

*IEAは中国の2023年の発電能力は2億3100万キロワット増えると予測。

*日本は1000万キロワット。

*ウクライナ危機で化石燃料に依存するリスクが浮上。

*再生エネの発電は天候に左右されやすく、変動があります。

*発電量の安定には火力や蓄電池を組み合わせる必要があります。

*IEAは2050年に温暖化ガス実質排出ゼロを達成するには、2030年時点で6割程度、2050年で9割近くを再生エネでまかなう必要があるとみています。

*安定した発電には、電気を無駄にせずに大消費地などに送る送配電網の充実も不可欠。

（2023年6月2日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

(2) 住宅購入検討者 7割が「省エネ」意識

光熱費上昇で関心

(不動産サービス大手 アットホーム調査)

- * 住宅の購入検討者の7割が「省エネ」を意識。
- * 過去2年間での購入者のうち、省エネを意識した人の割合は49.5%。
- * 住宅購入者に省エネの意識で良かった点を質問（複数回答）
- * 「月々の光熱費が安くなった」が43.4%で最多。
- * 「冷暖房効率が良いので快適に過ごせる」(42.4%)。
- * 「社会や環境に良いことをして貢献できていると感じる」(36.4%)。

(2023年6月16日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) CO2ゼロ住宅、改修が近道

木造建て替えより10年早く

- * 住友不動産、東京大学、武蔵野大学は木造住宅において改修が建て替えより二酸化炭素(CO₂)の量を10年以上早くゼロにできるとする研究結果を発表。
- * 建設から居住、解体までの一連のサイクルでCO₂の排出量を実質ゼロ未満にする「LCCM(ライフ・サイクル・カーボン・マイナス)住宅」の普及のために、中古住宅の改修が有効。
- * 改修は建て替えより廃棄物が少なく済みます。
- * 太陽光発電を併用すれば約35年でCO₂排出量をマイナスにできます。
- * 建て替えた場合は約50年かかります。
- * 住宅関連のCO₂排出量は、日本全体の1割強を占めます。

(2023年6月22日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

